高校生スタッフが見た理系漫画の世界！

最先端の研究初心者目線で科学をグッと面白く

理系漫画家はやのんさんを取材する高校生スタッフたち

想像してみよう。例えば世界最先端の研究が漫画にされたら…。科学がグッと身近になり、小難しい物理や化学の授業も面白くなるに違いない。高校生スタッフは理系漫画家として活躍中のはやのんさんを取材。理系漫画家って？その未知なる領域に挑む理由とは―。

講演の準備のため、愛知県岡崎市の自然科学研究機構を訪れたはやのんさんは、待ちわびたかのように、お団子ヘアと笑顔で迎えてくれた。専用のペンや用紙をとくさんお持ちしていると思いきや、手元にあったのはノートパソコン。「原稿がデジタルデータなので、間違えを簡単に直せるし、どこでも仕事ができて便利なんです」。はやのんさんは、大学時代に理科を専攻。理系の知識を生かし、科学に関する話題や最先端の技術などをテーマに漫画を制作している。現在は子ども向けの月刊誌や新聞、ゲーム雑誌などに五作品を連載中。「ボロボロになるまで、鉛筆による下描き→ペン入れ→着彩→パソコンで仕上げ→印刷」という一連の作業を通して、「分からない人」代表として、「分かる人」に伝えることを意識しているという。

人柄も描き込む

心掛けているのが「分からない人」代表として、「分かる人」に伝えることを意識しているという。

講演内容は、知県岡崎市の自然科学研究機構を訪れたはやのんさんが、「理系漫画で、最先端脳科学をわかりやすく伝える方法とその魅力」について、実際の漫画を使って紹介する。

当日は、新作の描き下ろし漫画や、これまでのはやのんさんと生理研タイアップ作品、鱗田准教授の作品などと、パネル展示も開催されました。

講演の中盤では、理系漫画の特徴として、「理系漫画は、科学の知識を生かし、科学の技術などをテーマに漫画を制作している。現在は子ども向けの月刊誌や新聞、ゲーム雑誌などに五作品を連載中。」と紹介。

「ボロボロになるまで、鉛筆による下描き→ペン入れ→着彩→パソコンで仕上げ→印刷」という一連の作業を通して、「分からない人」代表として、「分かる人」に伝えることを意識しているという。

はやのんさんは